

令和3年度 病害虫発生予察情報

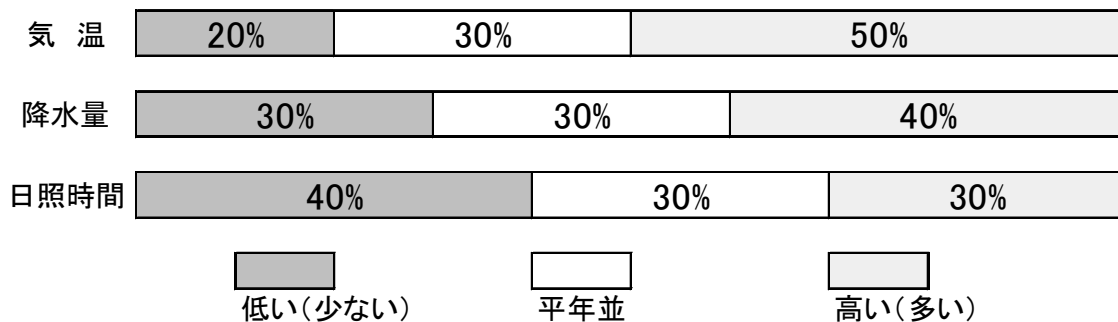
発生予報第7号（9月）

令和3年9月3日
島根県

予報の概要

区分	農作物名	病害虫名	予想発生量
普通作物	イネ	穂いもち	やや多い
		紋枯病	平年並
		白葉枯病	少ない
		もみ枯細菌病	少ない
		ツマグロヨコバイ	やや少ない
		トビイロウンカ	平年並
		斑点米カメムシ類	やや少ない
		ハスモンヨトウ	平年並～やや多い
		黒斑病	平年並
		シンクイムシ類	やや多い
果樹	ダイズ	ハダニ類	少ない
		カメムシ類	やや多い
	ナシ	うどんこ病	平年並
		カキミガ	平年並
		カメムシ類	やや多い
野菜	アブラナ科野菜	アブラムシ類	やや少ない～平年並
		コナガ	やや多い
		アオムシ	少ない～やや少ない
		ハスモンヨトウ	平年並～やや多い

中国地方1か月予報(9月4日～10月3日・広島地方気象台9月2日発表)
 <向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



A. 普通作物

1) イネ

(1) 穂いもち

予報内容

発生地方

発生量

予報の根拠

県内全域

やや多い

①「きぬむすめ」などで葉いもちの発生は平年に比べてやや多い。

②向こう1か月の気象は、本病の発生を特に抑制する要因とはならない。

(2) 紋枯病

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 平年並

予報の根拠

①全般の発生量は平年並みである。

②向こう1か月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(3) 白葉枯病

予報内容

発生地方 常習発生地

発生量 少ない

予報の根拠

①本病の発生は認めていない。

②向こう1か月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(4) もみ枯細菌病

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 少ない

予報の根拠

①全般の発生量は平年に比べて少ない。

②向こう1か月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(5) ツマグロヨコバイ

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 やや少ない

予報の根拠

①8月24日～8月27日の巡回調査では、発生ほ場率28.3%（平年58.0%）、捕獲虫数7.2頭/50株（平年31.2頭）であり、発生量は平年に比べてやや少ない。

②8月第6半旬までの予察灯への総誘殺数は35頭（平年327.9頭）と平年に比べて少ない。

③向こう1か月の気象は、本種の発生にやや助長的である。

(6) トビイロウンカ

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 平年並

予報の根拠

①8月24日～8月27日の巡回調査では、発生ほ場率6.5%（平年35.2%）、捕獲虫数0.3頭/50株（平年15.6頭）であり、発生量は平年並みである。

②8月第5半旬までの予察灯への誘殺は確認されていない。

③向こう1か月の気象は、本種の発生にやや助長的である。

(7) 斑点米カメムシ類

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 やや少ない

予報の根拠

①8月24～8月27日の巡回調査では、発生ほ場35.9%（平年35.9%）、捕獲虫数0.9頭/20回振り（平年6.3頭）であり、全般の発生量は平年に比べてやや少ない。

②8月第5半旬までの予察灯でのアカスジカスミカメの誘殺数は180頭（平年210.1頭）で平年に比べてやや少ない。

③向こう1か月の気象は、本種の発生にやや助長的である。

2) ダイズ

(1) ハスモンヨトウ

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

①8月下旬の巡回調査では、本種幼虫による白変か所数は0.3か所/a（平年0.5か所）、発生ほ場率は27.8%（平年27.2%）であり、発生量は平年並みである。

- ② 8月のフェロモントラップによるハスモンヨトウ雄成虫の累積誘殺数は、県東部では873頭（平年246.8頭）と多く、県西部では143頭（平年220.8頭）と平年並みである。
- ③ 向こう1か月の気象は、本種の発生を特に助長する要因とはならない。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容

発生地方 ナシ（二十世紀）栽培地帯

発生量 平年並

予報の根拠

- ① 8月下旬の巡回調査では、発病葉率は13.6%（平年14.6%）であり、発生量は平年並みである。
- ② 向こう1か月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) シンクイムシ類

予報内容

発生地方 ナシ栽培地帯

発生時期 平年並

発生量 やや多い

予報の根拠

- ① 予察ほ場（安来市・出雲市）のフェロモントラップでのナシヒメシンクイ雄成虫の誘殺盛期、誘殺数ともに平年に比べてやや多い。
- ② 向こう1か月の気象は、本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

(3) ハダニ類

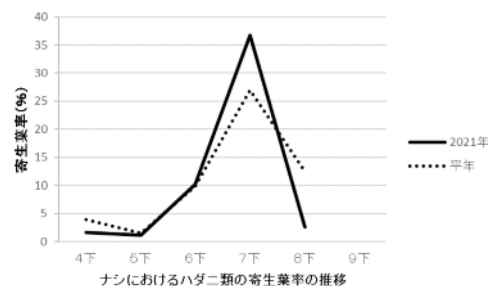
予報内容

発生地方 ナシ栽培地帯

発生量 少ない

予報の根拠

- ① 8月下旬の巡回調査では、寄生葉率は2.6%（平年12.5%）であり、発生量は平年に比べて少ない。
- ② 向こう1か月の気象は、本種の発生を特に助長する要因とはならない。



(4) カメムシ類

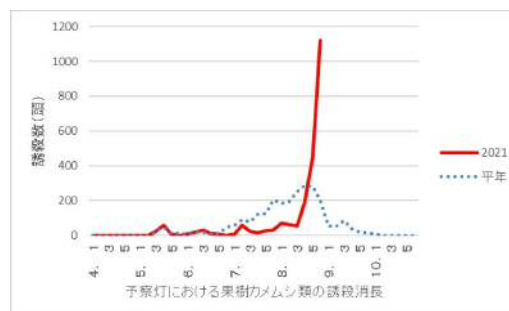
予報内容

発生地方 ナシ栽培地帯

発生量 やや多い

予報の根拠

- ① 予察ほ場（出雲市）の8月第3半旬から第6半旬までの予察灯でのカメムシ類の誘殺数は1,816頭（平年1,020頭）と平年に比べてやや多い。
- ② 向こう1か月の気象は、本種の発生を特に抑制する要因とはならない。



2) カキ

(1) うどんこ病

予報内容

発生地方 カキ栽培地帯

発生量 平年並

予報の根拠

- ① 8月下旬の巡回調査では、発病葉率は9.9%（平年11.2%）であり、発生量は平年並みである。
- ② 向こう1か月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) カキミガ（第2世代）

予報内容

発生地方 カキ栽培地帯

発生量 平年並

予報の根拠

- ①第1世代幼虫による芽及び果実の被害は平年並みである。
- ②向こう1か月の気象は、本種の発生を特に助長する要因とはならない。

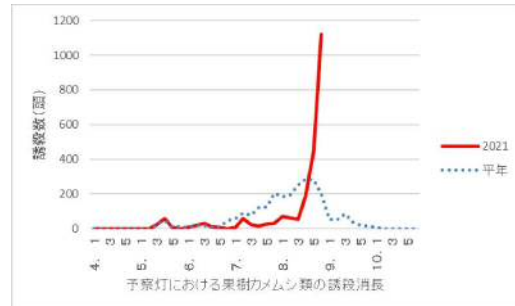
(3) カメムシ類

予報内容

発生地方 カキ栽培地帯
発生量 やや多い

予報の根拠

- ①予察ほ場（出雲市）の8月第3半旬から第6半旬までの予察灯でのカメムシ類の誘殺数は1,816頭（平年1,020頭）と平年に比べてやや多い。
- ②向こう1か月の気象は、本種の発生を特に抑制する要因とはならない。



C. 野菜

1) アブラナ科野菜

(1) アブラムシ類

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 やや少ない～平年並

予報の根拠

- ①8月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は28.6%（平年61.3%）と少なく、寄生株率は7.1%（平年14.4%）とやや少ない。
- ②現在までの黄色水盤への有翅虫の累積飛来量は平年並みである。
- ③向こう1か月の気象は、本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) コナガ

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 やや多い

予報の根拠

- ①8月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は57.1%（平年17.5%）、寄生株率は5.7%（平年3.5%）であり、発生量は平年に比べてやや多い。
- ②向こう1か月の気象は、本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

(3) アオムシ

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 少ない～やや少ない

予報の根拠

- ①8月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は14.3%（平年25.9%）と少なく、寄生株率は1.4%（平年4.9%）とやや少ない。
- ②向こう1か月の気象は、本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(4) ハスモンヨトウ

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ①8月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は0%（平年16.2%）、寄生株率は0%（平年2.2%）であり、発生量は平年並みである。
- ②8月のフェロモントラップによるハスモンヨトウ雄成虫の累積誘殺数は、県東部では873頭（平年246.8頭）と多く、県西部では143頭（平年220.8頭）と平年並みである。
- ③向こう1か月の気象は、本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

農薬の安全使用の徹底を！

- ・農薬の使用基準（適用作物、使用量又は濃度、使用時期、総使用回数、最終有効年月）を遵守する。
- ・防除履歴（使用日時と場所、作物名、農薬の種類と量）を記帳する。
- ・農薬散布時には周辺作物に飛散（ドリフト）しないように注意する。
- ・水田で使用する農薬の止水期間を守る。
- ・散布後は散布器具の洗浄を徹底し、空き容器は正しく処理する。
- ・病虫害の発生状況を把握し、必要最小限の農薬使用に努める。

○病虫害防除所のホームページでは発生予察情報の他、各種情報を掲載しています。

島根県病虫害防除所

TEL 0853-22-6772

FAX 0853-24-3342

ホームページ

<http://www.pref.shimane.lg.jp/nogyogijutsu/byougaityuu/>